

WATCH the NEWS



サルタンズ・オブ・ピンF.C.

「俺たちのファンは、
みんなバンパイヤなのさ！」



笑撃のグロテスク・グラマラス、瞳孔全開顔面筋肉の必殺挑発18禁パフォーマンス・バンド、サルタンズ。日本を救うべく、学園祭へ殴り込みギグの巻。

今夜のオーディエンスの反応はどうでしたか？
「Pretty Weir!」とつてもよかったですよ。でもアクシデントがあったことが残念だった(注・ギグの最中に皆がステージに殺倒したため、最前列にいた女性がフェンスにおしつけられケガをした)。本日はもう一曲演るはずだったんだけどね」
前日の仙台の男子高でのライブもすこかったと聞いていますか？
「800人もはいったんだよ！それも古い体育館だったもんで床が抜けちゃってさ(笑)。すこくエキサイトしたよ」
今夜は満員だったステージで騒いでたけど、体調に何か変化はあったか？
「もちろんサルタンズのファンにはバンパイアが多いからね(笑)。僕らだっ

10月31日、晴れ。京都に妙ちきりんな奴らがやって来た。サルタンズ・オブ・ピンF.C.。91年アイルランドからライブ・シーンに飛び出した、ちよつとキレてる4人組である。ファーストシングル「Where's Me Jumper?」はいきなり全英インディーチャートNo.1を獲得し、4枚目のシングル「U-Turn 2 Mutt」も全英チャート32位をマーク。今年2月にリリースしたデビューアルバム「映画館でカジュアルセックスを」も好調という型破りの快進撃だ。サッカーとバンク・ロックと女装と日本の女のこをこよなく愛するという彼ら、「TEENAGE PLANET」と銘打って、日英友好を目的とした学園祭救済ライブツアーを行なった。一体何を考えているのかと思ったが、実は何も考えていないらしい。本日の乱入場所は成安造形美術短期大学。寒さの中集まった約400人の中には、なんと少年ナイフの3人の顔もあった。ライブ後、ヴォーカルのナイル・オーフラハーティにインタビュー。



作よりずっと凝っているんだ。1枚目は持つてる曲をとりあえず全部入れたって感じなんだけど、今回は、作るうって意識の上で作ったからね。僕たちも大満足しているんだよ」
取材・文/木村龍平
協力/EPIC/SOLVO Records
成安造形美術短期大学

てそうさ。だからステージでも血が騒いで大変だったよ」
——本国のファンと日本のファンの違いって感じられますか？
「特にはないね。でも強いて言えば、イギリスのファンは僕たちの全部を受け入れて、音楽も何もかもひっくりかえりて、音も好きになるって感じだけど、日本のファンはもっとパーソナルだよ。メンバーの誰が好きだとか、プレゼントや手紙をくれたりとか、ね」
——少年ナイフや追っかけの女のこのことを歌った「ジャバニスガール」や、「ウエロロ」など純粋に女性を歌った曲があるけれど、これってあなたのラブ・ソングとしてとっていいの？
「それだけじゃないよ！そりゃそんな曲も中にはあるけど、僕らはもっと怒りを歌っているよ。怒りのポップ・ミュージックってとこかな。それは聴いてくれたらわかると思うよ」
——2枚目になる、ニューアルバムについて教えてください。
「1枚目とは全然違ったものになっているよ。もっとポップで、アレンジも前

広瀬香美インタビュー

この冬の恋と人生の成功を歌う天才作曲家!



「サクセス・ストーリー」/広瀬香美/
3,000円(税込)/ビクター・エンタ
テイメント



「やったことなくて、この間の休みに行こうと計画したら風邪ひいちゃって。この冬に行くつもりです(笑)。で派手なウェア着たりして、初心者なのに(笑)」

「詞の中にもありましたよね(笑)。そして新作「サクセスストーリー」はいわゆる恋愛のサクセスを歌いつつ女性の人生サクセスを歌っているというカンジですよ。」

「映画音楽という坂本龍一さんのことく？」

「そうなりたいですね。映画音楽はやりたいし、やれるかなと思うんですけど今はまだ発揮できてないし。そして私より歌やダンスができるような人に私の曲を歌ってもらいたいですね。もちろん今、ではなくてそういう風な道に進みたいんですよ。作曲家としては、もしかしたら世界のビッグ・アーティストに歌ってもらえるってことも、可能性としては0ではないかなと思うので、それを伸ばしていきたいですね」

「具体的にやってみたい映画は?」

「余り詳しくないんですけど「ターミネーター2」とかね。わかり易いのがやりたいですね。「ドカーン」ていうの。サントラと違えど「愛があれば大丈夫」は映画「病院へ行こう」の主題歌になりましたよね。」

「この音楽ならどこで使われるのかなって非常に興味ありましたし面白かったです。撮影の現場にも立ち合えたし、楽しかったですよ」

「サクセス・ストーリー」からのシングル「ロマンスの神様」は、某スキー・ウェアのCMソングになってますが、スキーは?

「はい。みんな天職をみつけて、男のひとにプラ下からずガンバっていいようにしろ、自分の意見をちゃんと伝えて、自信を持って頑張りたいですよ」

「サクセス・ストーリー」は、応援歌みたいなアルバムでもある、と。

「そうですね。そう感じて頂けると非常に嬉しいです。そう感じて頂けると嬉しいです。」

「前作「グッド・ラック!」もそういう感触ありましたけど。励ます。ようなのって広瀬さんのテーマでもあるんでしょうか。」

「励ます、というよりはオシロをたく、というか。私もこんな風にガンバってるからね、と。それがカッコイイなってことになれば、リスナーの方もついてきてくれるだろうし、そういう風な存在でありたいな、と思いますよ。皆さんもそれぞれの道を見つけて。そして私自身も、いい加減サクセスしたいな(笑)」

「広瀬さんを通して世界的サクセスを疑似体験する、てのもいいですね!。とにかくまず映画音楽、期待してます。やりたいですね!」

「シンゴ」の中には6才の時の曲がありますね」

「すこい。今作「サクセス・ストーリー」の中には4才の時の曲を使ったのってありますか。」

「4才の時の曲はないですね。7才の時の曲はありますけど(笑)。4才の時のものはライブをするようなことになれば、是非やろうと思ってるんですけどね」

「ライブの予定は?」

「ないんです。とにかく他にやりたいこといろいろあります。インスタトゥルメンタルとか自分のアルバムをオーケストラ・アレンジに書き直してみたい。それにやっぱりプロデューサーになりたいんですよ。他の人を育てたいなっ

「4才から作曲を始められてからずっと書きためてこられた曲のストックが沢山あって、そのストックの中から曲を作られるとか。4才の時のものも今も使ったりするんですか。」

「使いますよ。でもその頃の曲って2〜3曲しかなくて。デビューアルバム

取材・文/早川加奈子
協力/ビクター・エンタテイメント

ソフト・バレエインタビュー

ニューアルバムの中に孵化した生命の音楽を。

11月26日に5作目のニューアルバム「インキュベイト (INCUBATE)」をリリースしたソフト・バレエ。タイトルは「INCUBATE」とは、孵化する、とか計画を企てるといった意味を持つ言葉。どこからこのタイトルが発

生したのかと聞けば「アルバムを作ってる時にふと語呂がいいな、と思ったんです」(藤井) だそうで、今回も意味

深なタイトルながらコンセプトめいたものはないそうである。本人達は否定していたが、前作に比べてぐっとポップに扉を大きく開けた印象の今作には、オルケスタ・デル・ソルのメンバーを始めマッド・カプセル・マーケットのメンバーやゴンチチ(アコースティックギターで参加) など多数のゲストが参加していることは見逃せない。テク

ノハウス/ノイズ/アンビエント/スラッシュyetcの渦巻くサウンドは、アッパーなものから、グルーヴィなナンバーまで、実に多彩に構築されている。遠藤岡賢の作曲による①「パレード」の圧倒的なメジャー展開に引き込まれていくうちに、聴く者の脳髓の奥深く一魂の生命体が孵化しているかもしれない。

白井貴子インタビュー

5年間の熱い想いを、温かい声で歌うから。

80年代、ロック・シンガーの白井貴子はその足跡を日本の音楽史に残したといっても過言ではない。その彼女が88年に白井貴子&クレイジーボーイズ解散後ソロとして歩んできた道は、意外に険しい道でありであった。自身の音楽性と業界内の抑圧の中、試行錯誤の日々を経、新たなスタートを切った彼女にインタビュー。中学、高校時代の多感な時期を京都で過ごした彼女に、現在の心境などについて聞いてみた。

93年4月にレコード会社を移籍されて、シングル↓ミニアルバム↓シングル×2↓ミニアルバム、というペースでのリリース。フルアルバムが94年の初頭過ぎの予定、だというのはアルバムに対する意気込みが相当だな、と。

「202年くらい、もっと多くの人に聴いてもらいたい、と思ってやってきたわけですが、それが思うようにならない

「抱きしめて」ですね。はい。あれなんか今の状況がでてる曲、ありますよ。はい。あれなんか今の状況がでるといふか、白井さんて今すごく幸せなんだなあって思いますよ。うらやましいな、と。失恋の歌なのに(笑)。「何なんだろう、温かさがあるんですね。自分で言うのもアレなんですけど、人



「グッド・トゥ・ビー・ワイルド」、「ベビーフェイス」



「インキュベイト」ソフト・バレエ/3,000円(税込)/ピクチャーエンタテインメント

取材・文 早川加奈子
協力/アッパ・フロントミュージック、
テイチク、Artistation

TRUE ROMANCE



WATCH the NEWS

地の果てまで逃げよう、愛のために。

トニー・スコット&タランティーノコンビが贈る、暴走のエクスタシー。



ソクソクするほどに、セクシーな時間である。といってもベットシーンが多いなんて意味じゃない。登場する男たちがどれもこれも、皆さぶるセクシーなのだ。「レザボア・ドックス」で衝撃的な監督デビューを飾ったヤクザ狂クエンティン・タランティーノが、「レザボア」以前に手掛けた脚本作品「トゥルー・ロマンス」である。ストーリーは若い恋人たちのエスケイプ・アクション。メガホンを握るのはトニー・スコットだ。んじゃあれが、「トッブガン」の如く、悩みつつかか脳天気な青春野郎の物語ってやつかあ？セつつかクエンティンのシナリオなのにいーと、レザボアファンブルーイングがとんできそう。でも「安心を、トムクルーズの大味な青春ドラマとはカラーが違う。なんたって主役がクリスチヤン・スレーターだもんね。日本ではその猿顔(ワジ)が災いしてか今いち人氣に勢いがないけれど、あちらじゃ既にティーンの人気No.1アイドル。またヤング・ニコルソンと呼ばれるほどの演技派でもあるのだぞ。そのスレーター扮するのが青年クラレンス。女にはもてないし、夢中になれるものといえはエルビス・プレスリーとアクション映画だけという、なんとも暗くてジミイな奴。だが誕生日の晩に新米主婦のアラバマと出会い、ひたすら恋に生きる男に大変身するのだ。翌日にはもう

ウェディング・ベルを鳴らすふたり。ところがどっこい、アラバマにはヤクの売人のヒモがいた。嫉妬にかられたクラレンスはその男のねぐらへ決着をつけに行く。だが男と話がこじれ、あやうく殺されたクラレンスは逆に男を殺してしまう。アラバマの荷物が戻ってみれば、なんとスツケースの中には何の間違いか50万ドル分のヤクがぎっしり詰まっていた。とんだ事態に首を突っ込んでしまったふたりの逃避行が始まる。逃げる、追う、逃げる、追うのハイテンションな状況の中、徐々にキレてゆくスレーターと、ヒロインと呼ぶにはあまりにも過激なアラバマ。ふたりの存在感もさることながら、共演者陣がまた強力だ。デニス・ホッパー、クリストファー・ウォーケン、ゲイリー・オールドマン、ブラッド・ピット、バル・キルマー、クリストファー・ベント、よくここまで集めたなど驚くほどのキワモノ揃い。誰がどんな役柄かは観て納得するのがベストなのでここでは触れないが、ホッパーとウォーケンがからむシーンに走る緊張感のもの凄さ。これは映画史上に残る名演といっても過言でない。もともとこの作品はタランティーノ自身の青春時代がベースになっているらしく、会話の中に数々の映画タイトルやスター名が出てくるなど、観ているほうがニヤリとするおたくぶりを発揮してくれる。映画ファンも嬉しい。「真実の愛」だなんて随分とまた甘いタイトルだけれど、中味の方は100%シユガーコートティンクなし。スピードとブラックユーモア、そして弾丸の愛が炸裂する、まさしく世紀末のポニー&クライドの物語なのだ。

文 木村紀子

1月中旬、京都ロキシーにて公開予定。

WATCH the NEWS

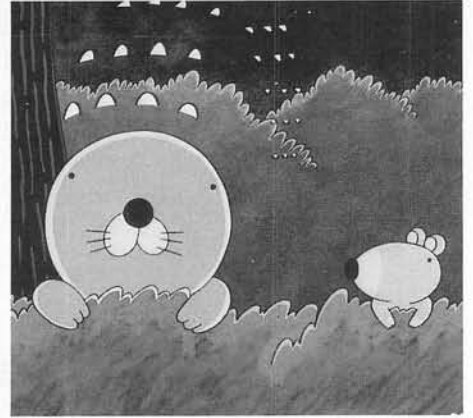
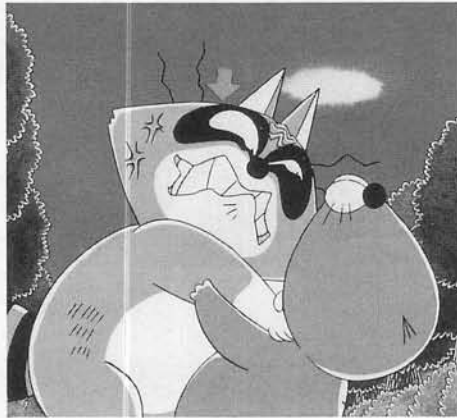
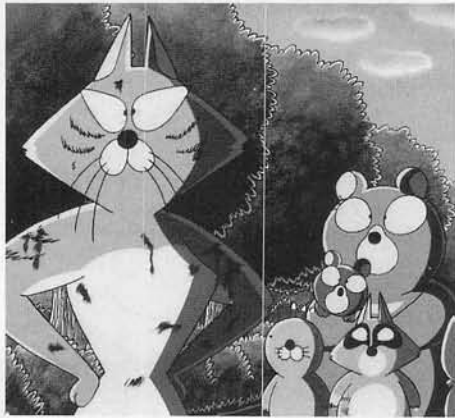
カルトな人気を誇るぼのぼの、
いよいよスクリーンに登場。

漫画『ぼのぼの』がデビューしてはや7年、待望のオリジナル・劇場用アニメーションが原作者のいがらしみきお自身の監督・脚本により完成した。あの心地よいまでの間と絶妙なタッチ、そして映画ならではのいがらしワールドがスクリーンに展開される。音楽は、映画『無能の人』で脚光を浴びたコンチチ、エンディングテーマに大沢登志幸を起用。監督自身が声優の一端を担うなど、見どころが満載だ。

主人公はもちろん、ラッコの子供ぼのぼの。生活のベースとなる平穏な森に、突然、見たこともないデッカイ生き物がくる。という怪情報もたらされる。その怪情報をめぐり動物たちはてんやわんやとなる。ぼのぼの、アライクマくん、ヒクマの大将をはじめとした、子供、大人の動物たちの独自の視点、さらに動物たちの親子関係が奇想な出来事をテーマに繰り広げるシーン。それぞれのキャラクターの特異なライフスタイルや、人間社会に置きかえられる動物たちの言動も見逃せない。

「悩みを抱えていたり、毎日気分が重い、ストレスがたまり気味、そんな人たちの薬のような存在になればと思っ
ている」と、いがらし監督は語る。病める現代人の特効薬、難しく考える必要はない、まずは一度ご覧あれ。

文／亀井孝文
12月18日(土)より「うめたシネマ・ヴ
エリテ」にて公開中！
TEL 06-3611-4310



LIVE ★ INFORMATION

NOISE FACTORY

いよいよ京都から羽ばたきつつあるNOISE FACTORY。おちゃらけの中に光る真な眼差しと、ロックの中に潜む底知れぬジョーク。先頃行なった東京ライブでは早くもオーディエンスを攪乱させた模様である。ロック、ポップス、ヘビメタに童謡をプラスしたというスペースベシカルミュージック。この意味がわからないあなたは、まだ彼らの震にはまってない証拠だ。

「普通のロックでは言わないことを歌にする」というメンバーの言葉通り、その独特な歌詞が今や大ウケ。今回のライブで、またひと回り成長したであろう彼らの姿と芸風(笑)に期待したい。「幅広く、中途半端にやっています。とにかく見に来て下さい。虜になります!」



- ◎ 12月26日(日)
- 18:00PM
- ¥3,000円(全席指定)
- △ 京都都会館第2ホール
- サウンドコネクション
- ☎ 075-771-6018
- 🎧 ソングバード
- ◎ 06-316-1817

原田真二 XMAS NIGHT

年末もグッドなミュージックが盛り沢山のライブスポットRAG。クリスマスのお薦めは原田真二。チケットは大急ぎで。

12月25日(土)
開場18:00PM・開演19:30PM
¥前売4,120円・当日4,635円
△ Live spot RAG
☎ 075-24-0446